

令和7年度 江戸川区立篠崎第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 探求心をもち学ぶ生徒</li> <li>○ 礼儀正しく豊かな心をもつ生徒</li> <li>○ 健やかな体をもつ生徒</li> </ul>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>「自分を磨き、互いに高めあえる学校」「保護者や地域から信頼される学校」 【あきらめない心をもって 未来を拓く】①自分から進んで学び、対話を通して深く考え、行動することができる生徒 ②自他の命を大切にし、仲間を思いやり、人と上手に接することができる生徒 ③「篠二中」や地域を愛し、広い視野をもち、仲間や社会の役に立つことができる生徒 【学び続ける教師】①生徒の気持ちや考えを理解し、対話を大切にしながら、生徒と接することができる教職員 ②生徒が自己実現のための意欲と行動力を身に付けるため、生徒の学びを支援できる教職員 ③保護者の願いや社会の期待を自覚し、未来を生きる生徒を育成することができる教職員 ④未来を生きる生徒とともに自己啓発と自己変革に意欲的に取り組むことができる教職員</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶指導に重点的に取り組み、適切な対人関係を構築するとともに、生徒の自主性・主体性を取り入れ、教育活動の充実が図られた。</li> <li>○ 保護者や地域に教育活動を公開するとともに、連携協力を深め、地域の学校としての機能を発展できた。</li> </ul>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達支持的生徒指導の充実を推進し、学習指導と生徒指導を一体化することで生徒の生きる力を伸ばさせる。</li> <li>○ 家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣が確立した自己管理能力を身に付けた自立した学習者を育成する。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価（A~D）		「年度末」学校関係者評価（A~D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	基礎基本の徹底と「思考力・判断力・表現力」の向上	学習コンテストの実施 再テストの実施 (国数英・各1回)	コンテスト合格者80%以上 再テスト合格者50%以上	80%		B	再テストでの合格者を増やすことができなかった。事前学習、事後学習を徹底していく。	C	家庭学習課題を増やしてほしいという意見がある。授業の評価は高いが、家庭学習習慣の定着のための指導を期待する意見がある。	A	事前学習の指導、再テストに向けた指導とも充実することができた。	B	取組は丁寧に行われている。結果についてはさらに向上を期待したい。	コンテストの問題の精選や再テストでの合格者増加に関して工夫改善を行う。
		委託業者による放課後学習教室・E D Oスクの実施	登録生徒率100% 出席率90%以上	70%		B	登録率は100%に近い状況になったが、出席率は回を追うごとに低くなった。学級担任等からの指導を強化していく。	B	参加している保護者からは高い評価がある。もっと参加者数が増やせないかという意見がある。	C	登録率、出席率ともに目標を達成できなかった。定期考査前の集中講座は充実した取組となった。	B	繰り返し募集を行ってくれることはとても良い。参加者の状況を保護者に報告してほしい。	定期考査前の実施に変更となることを生かし、参加者増、保護者との連携を強化していく。
	読書科の更なる充実	朝読書と読書科を連動したまとめ学習の実施	学期に1回、全学年で実施	70%		B	年間計画上、まとめ学習を実施できない学年があった。2学期は計画通りの実施を推進する。	C	活動を知る期間が少なく、作品を見る機会が欲しいという意見がある。	B	課題探究学習や表現方法の工夫は前年度から改善・向上が見られる。計画的実施が課題である。	B	どのような学習を行っているのか、どのような力がつくのかをもっと知らせてほしい。	年間指導計画の見直しを推進し、活動内容の充実を図る。
体力向上	健康の増進と体力の向上	メディアコントロールを通じた睡眠時間と学習時間の確保	メディアコントロールチャレンジ週間の実施（年3回）	90%		A	取組は確実に実施できた。学習時間や生活リズムの改善につながった生徒も増えている。継続した指導を行っていく。	B	メディアの使用に関する指導について学校に期待する意見がある。家庭での指導について困っている家庭が多い。	A	生徒の意識の変化や行動の変容が見られた。	B	取組が形骸化している。実態どおりには生徒は報告していない。	継続実施する中で、さらなる行動の変容を図る。保護者との連携を充実させる。
		計画的な体力テストの実施と継続的な体力測定の実施	1学期と3学期の測定結果で10%の記録向上	80%		B	十分な準備をしたうえで体力テストを実施した。結果を踏まえ、2学期以降に重点指導を行っていく。	B	運動会での生徒たちの活動を評価する意見が多かった。	A	意図的な指導により体力向上が見られた。	B	体育以外の場面での運動を習慣化するような指導をお願いしたい。	運動場を増やす工夫や家庭での運動習慣の確立を推進する。
		食育・給食指導の充実	給食日より（月1号発行） 主食残菜率15%以下	90%		A	献立の工夫や給食指導の成果として残菜は減少傾向にある。学級ごとの指導の差を解消する工夫を行う。	A	生徒たちが給食がおいしいと帰宅して話すことが多いとの情報がある。給食試食会の回数を増やしてほしいという意見がある。	A	給食準備に要する時間が短縮された。喫食の時間が確保された。	A	工夫したおいしい給食が提供されている。さらにメニューの工夫をお願いしたい。	栄養教諭による食育を一層推進する。

生きる力の醸成	避難訓練・安全指導の充実	危機回避能力の向上のための指導内容の充実	生徒アンケート結果における肯定的評価80%以上	90%	A	避難訓練や安全指導の充実を図り、生徒の意識が向上している。様々な危機に対する回避能力を今後も指導していく。	B	校外での生活、自転車の利用等について指導を強化してほしいという意見がある。	A	さまざまな場面を想定した指導が計画的に行われた。危機回避能力の向上が図られた。	A	校外での生活につながる安全指導をお願いしたい。	日常的な危機回避能力の向上に向けた指導及び啓発を行っていく。
	いじめのない学校の構築	他者理解や他者尊重の精神の醸成のための教育活動の実施	いじめに関する授業の実施（年3回以上）	70%	B	学活や道徳、朝礼講話等、多くの場面でいじめ防止に関する指導を行った。いじめに関する指導に終わりはないと考え、継続的に取組の充実を図る。	B	いじめが繰り返されることについて心配を感じている意見がある。家庭での指導も大切とする協力的な意見もある。	A	いじめは繰り返し発生するが、その都度早期対応により解消することができた。	B	繰り返しいじめをさせないように指導を強化してほしい。	いじめ防止基本方針に基づき組織的な指導体制を構築・発展させていく。
	ボランティア活動の奨励	校内外でのボランティア活動の紹介及び参加の奨励	校内ボランティア参加生徒率50%以上 ボランティア機会の紹介（年10回以上）	50%	C	ボランティアへの参加の紹介や呼びかけは行ったが、参加者の増加は見られなかった。参加意欲の向上に向けて工夫改善を図っていく。	B	ボランティアに参加している生徒への評価は高い。もっと多くの生徒が参加してほしいとの意見がある。	B	ボランティアの紹介が十分ではなかった。参加者は増加傾向にあるが、限定的な参加者になっている。	C	もっと多くの生徒が参加するよう指導してほしい。	ボランティア活動参加に対する教員の声かけの強化、指導意欲の向上を推進する。
開かれた学校の実現	学校ホームページ等の充実	ホームページの更新：週4回以上 学校だより：月1回発行	保護者アンケートにおける肯定的評価：90%以上	90%	A	ホームページの更新や学校だよりの発行は計画通り行うことができた。ホームページ更新担当者の育成が課題である。	A	学校広報に対する評価と期待は高いものがある。宿泊行事のホームページ更新は好評である。	A	数値目標達成できた。内容の充実が図られた。	A	学年だよりなどで学校の様子を知らることができてよい。	継続・発展を推進する。広報に関わる教員を増やしていく。
	学校関係者等評価の充実	生徒アンケート、保護者アンケートの実施（年2回）	全質問について肯定的評価80%以上	90%	A	肯定的評価の目標はおおむね達成できた。回答率が低いことが課題である。	B	数値的な評価は高い項目が多い。自由記述では要望や意見が見られる。	A	数値目標達成できた。	B	更なる工夫改善を求める記述に意見が見られた。	否定的な回答をする原因を分析し、更なる教育活動の充実を図る。
	外部人材の活用した教育活動の充実	外部講師を招聘しての講演会等の実施	年5回以上、全学年で実施	75%	B	外部講師を積極的に活用し、生徒たちの学びを広めることができた。講師の新規開拓、早期立案が課題である。	B	外部人材の積極活用を期待する意見がある。	B	講演会等は計画通りに実施できた。内容が生徒の実態に合わないものもあった。	C	もっと多くの外部人材の話を聞く機会を設けてほしい。	生徒や保護者の興味関心を高める講師の選定を推進する。
教育の特色ある展開	働き方改革の推進	月1回の定時退勤日の設定 年次有給休暇15日以上取得	全教職員の月残業時間55時間以下 15日以上取得70%以上	60%	C	残業時間の目標は7割の職員が達成できた。休暇の取得は今後も推進する。	B	遅くまで丁寧に対応していることへの感謝と評価の意見は多い。教員の多忙を心配する声もある。	C	数値目標を達成できる職員とできない職員が二極化した。	B	朝早くから夜遅くまで働いてくれていると感謝する。	定時退勤の奨励、業務内容の平準化をさらに進める。
	教員研修の実施	年間12回の校内研修会の実施	教育課題研修2回 校内授業研究2回 服務事故防止研修3回+適宜 その他5回	80%	B	校内研修会は計画通り実施できた。紙面による研修も適宜実施し、指導力等の向上が図られた。	B	教員の指導力や対応力の差を感じることもあるとの意見がある。	B	校内研修会は充実実施できた。OJTの活性化が課題となった。	C	指導力に差がある。学習指導力を向上してほしい。	教職員集団の実態に応じた研修計画を作成実施する。